一　般　質　問　通　告　書

令和７年　６月　２日

高島市議会議長　河越　安実治　様

高島市議会議員　９　番　是永　宙

次の事項について質問いたしたいので通告します。

※質問項目（番号）が２以上ある場合は、次のどちらかに〇をつけてください。

・質問番号１の用紙にだけご記入ください。
・質問が一つだけの場合は必然的に１となりますので、記入は不要です。

初問は
- １．全項目一括質問一括答弁
- ②．項目ごとに一括質問一括答弁

（質問番号　２） 発　言　事　項	地域と大学との連携をサポートする中間支援や「域学連携」の必要性について

要　　旨　（項目だけでなく、質問の趣旨が理解できるように記入してください。）

高島市は、他の多くの地方都市と同様に人口減少が著しく進行しており、地域経済の担い手不足、公共サービスの維持困難、地域コミュニティの活力低下といった深刻な課題に直面しています。これらの課題解決には、従来の行政手法に加え、外部の「知」と「人材」を積極的に取り入れることが重要だと考えます。

特に、大学をはじめとする高等教育機関は、専門的な知識、多様な人材、そして若者の視点といった、地域にとって価値のあるリソースを豊富に有しています。しかしながら、高島市には市内に大学などの高等教育機関が存在しないため、地域における活動においても若者の発想や行動力を取り入れることが難しく、活動の停滞や、人材不足に拍車がかかってしまっている状況があります。

そこで、地域の活力を生みだし持続可能な取り組みにするために、地域と市外の大学とのマッチングや活動をサポートするための「中間支援」の必要性について、市としての見解を伺うものです。このことについては令和４年３月定例会でも取り上げましたが、「複数の大学と連携を深め

て、協力体制を整えている」との答弁でしたが、大学との連携協定を締結するだけでは不十分であると考えており、今回再び取り上げるものです。

現在でも一部の地域では大学との連携がなされ、農業分野や福祉分野、まちづくり分野への参画や環境調査や保全の研究などが継続的におこなわれている例がありますが、（大学のボランティアセンターによるボランティア活動を除いて）多くの場合、大学の教員と地域との間の「個人的な関係性」に依存していることが多く、大学の教員の異動や地域でつながっている人の事情によって関係が途切れてしまうことは珍しくありません。また地域や市民活動団体が、大学との連携を考えた時にどこに相談すれば良いかわからない、という悩みも聞いておりますし、稀ではありますが、大学生受け入れによるトラブルが起きるような事例もあり、地域と大学との連携には何らかのサポートが必要であると考えています。

地域と大学の連携では、淡路島の洲本市（人口4．1万人）が注目されています。洲本市では「域学連携事業」として、これまでに56校から 1400 人以上の大学生が訪れ、ローカルプログラムを実践、連携事業に関わった学生が卒業後にも洲本との関係が途切れないような仕組みを構築し、卒業後も多くの学生が洲本市で地域づくりに関わるなどの成果を出しています。洲本市では、学生が無料で滞在できる施設や、現地移動のためのマイクロバスを市が準備するなど、積極的に学生の活動を支援していますが、地域と大学、さらには卒業生との交流を中間支援する組織も設置していて、大切な役割を果たしています。

以上のことを踏まえて以下、問います。

問1　地域と大学との連携にはどのような効果があると考えられるか？

問2　地域と大学との連携においてどのような課題があると認識しているか？

問3　地域と大学との中間支援をすることで、どのような効果が期待できるか？

問4　洲本市の例のような、地域で活動した学生の卒業後も視野に入れた地域と大学・学生との間のサポートや中間支援を検討できないか？